

島の水戸黄門

発行 対馬市峰町三根四五六番地五

松村繁実

新病院建設の背景

水戸黄門は1月17日平成23年3月 日執行された「対馬市ごみ収集運搬入札につき、住民監査請求をした。なお、31日同請求に伴う補足陳述をした。財部市長は本来であれば、CATVにより対馬市のホームページに掲載して、市民に公開するべきであるが絶対に公開しない。

住民監査請求については、対馬市議、小宮教義氏のホームページを借用致しておりますので市民の皆様はアクセスしてください。

討論会

2月 日、新病院建設について市長選挙候補者の討論会が行われることが報道されているが、この討論会に先立ち、市民の皆様に予備

知識として理解していただき、どの候補者に投票するか、これからの対馬市の医療崩壊につなげる候補者は、どの候補か、市民の皆さん、水戸黄門を読んだ後に、とくと討論を聴いてください。特に何故、経営黒字の厳原病院と中対馬病院を統合するのか？医師の確保は通用しない。

水戸黄門は

中対馬病院長の新病院建設の必要性についてと題する対馬新聞の投稿に激しい憤りを覚える。

新病院建設について、財部市長と中対馬病院の村瀬邦彦院長が平成20年12月以降、市民に情報隔離した事実について、暴露する。

以下は平成21年9月県議会議事

録、永留議員(当時)より抜粋したものである。20年12月でありましたか、**対馬市の地域医療等対策検討委員会から、市民の意向とは裏腹な統合再編の答申がなされました。**この答申をもとに、企業団は新築移転、統合案を提案したのではないが、そのように推察をいたしているところでございます。

ここでいう「**対馬市の地域医療等対策検討委員会**」とは厳原病院中対馬病院の両院長および桐谷事務長を含む総称である。

つまり両院長には医師の過重労働の事実及び新病院の必要性について市民に説明する義務が在ったにも拘わらず特定の建設業者に落札させるために故意に住民説明会をしなかったものである。

財部市長は平成20年12月に新病院建設の必要性について住民説明会をしなければならぬ義務があるにも拘わらず故意に建設場所が公表される可能性があることから住民説明会をしなかったものである。

詳述すると財部市長及び両院長の考えの根底にあるものとは・

住民説明会をすると建設場所につき軋轢が生じて本来の議論ができなくなるからと逃げたが、その裏に隠されているのは、住民説明会を開催することによって建設場所が特定されることになり

特定の建設業者に落札させるには建設場所を全ての設計業者に同時に公開してはならない。言い換えれば建設場所については特定の設計業者に耳打ちしなければならぬ。どの設計業者に落札させるか、建設場所を特定の設計業者に教えることができるのは財部市長に与えられた特権である。

ここまで書けば、賢明な皆さんは本来、平成20年12月以降、住民説明会を開かなければ成らない義務があるにも拘わらず財部市長が病院建設について「情報隔離」しなければならなかった理由がお解かり頂けると思います。けっして、軋轢が生じて本来の議論ができなくなるからではありません。

例を挙げれば、今回の新病院建設は厳原町小浦で、設計業者は山下設計、ゼネコンは国会議員の○●建設と企業体を組む・・・業者であり、

長崎県病院企業団対馬地域新病院建設
基本設計プロポーザル審査結果（公表）

馬地域新病院設計候補者審査委員会

委員長 村瀬邦彦

長崎県病院企業団対馬地域所病院建設基本設計プロポーザルについて、技術提案書の提出者として選定された6者から技術提案書の提出を受け、対馬地域新病院設計候補者審査委員会において、当該提案書の内容の審査及びヒアリングを行った結果、設計候補者を以下のとおり特定したので、公表する。

<設計候補者として特定された者の名称>

最適者 株式会社内藤建築事務所 所九州事務所
次席者 株式会社山下設計九州支社

<対馬地域新病院設計候補者審査委員会>

委員長	村瀬 邦彦	長崎県中対馬病院長
委員	太田 彰幸	長崎県病院企業団副企業長
委員	酒村 泰治	長崎県土木部建築課課長補佐
委員	川良 数行	長崎県福祉保健部医療政策課長
委員	糸瀬 一彦	対馬地域病院運営協議会副会長
委員	堀 義喜	対馬市建設部長
委員	糸瀬 良久	対馬市福祉保健部理事
委員	伊原 徹	長崎県対馬いづはら病院事務長
委員	立花 一憲	長崎県上対馬病院長

<特定までの経過>

平成 23 年 2 月 18 日（金）	第 1 回審査委員会
平成 23 年 2 月 25 日（金）	提案者募集公告
平成 23 年 3 月 11 日（金）	参加表明 提出期限 ※ 6 者から参加表明を受理 ※
平成 23 年 3 月 17 日（木）	第 2 回審査委員会 ※技術提案書の提出要請者 6 者を選定
平成 23 年 3 月 23 日（水）	技術提案書提出者の選定通知
平成 23 年 3 月 28 日（月）	現地見学会
平成 23 年 4 月 18 日（月）	技術提案書提出期限
平成 23 年 4 月 25 日（月）	第 3 回審査委員会（ヒアリング実施） ※設計候補者を特定
平成 23 年 4 月 28 日（木）	プロポーザルの特定及び非特定通知

これは新病院建設基本設計プロポーザル審査結果と選定委員の氏名である 「天の声」 以外にない。

この選定委員の中に最適者である内藤建築事務所と山下設計の優劣を選定できるものはいない。

山下設計から内藤建築事務所に変更されたことが疑惑である。小浦病院は山下設計と銀行の裏設計事務所がJVを組む、ドカタ建設とJVをくむゼネコンで、背景には福祉、医療予算を福祉法人を隠れ蓑に・・・日本の悪・・・医療機器リース。

小浦のギフトショップが病院付帯の薬局になっていた。ここでは後の捜査の障害になってはならないので詳述を避ける。

財部市長の考えの根底にあるものとは。平成21年9月県議会では対馬市の地域医療等対策検討委員会から、市民の意向とは裏腹な統合再編の答申がなされました。これでわかるとおり、水戸黄門は財部市長が執行権を悪用して、市民に新病院建設について充分な議論をさせることなく、数名の自己のブレーンと共謀して、病院企業団に係る答申をなしたと考えていた。

しかし、事実は全くの逆である。病院企業団が、**対馬市の地域医療等対策検討委員会**に新病院を建設するように持ちかけていた事実が明るみに出た。

市民の皆さんのなかで平成20年12月以降この新病院建設についての情報を自己の支持する議員から聴いたかたがいますか？おそらくないでしょう。議員はなぜ、この病院建設情報を市民に説明しなかったのか？責任は重大である。

県議会の答弁では

「先ほど福祉保健部長の方から、市議会の了解もあっているというようなお話でございました。確かにそういう状況はあったようでございます。ただ、1日あるいは2日、そういう期間の中で議会の了解をとるということは、おそらく、後ろには住民がいるわけでございますから、そういう簡単な問題ではなからうというふうに考えるわけですね」。

これでわかるとおり、県議会では市議会の了解があると答弁している。

しかし、対馬市議会では充分な議論は交わされていないのではないのか？と思われる。もしかしたら全員協議会ではないのか？詳しく調査する必要がある。もし、議会の了解をとっているとするのが、全員協議会の場合であつたなら、財部市長は市民に対して情報隔離、あるいは隠蔽工作をしていると言われても仕方がない。

このことは12月定例会の脇本議員の一般質問でも、住民に対して説明不足で在ったことを認めているような発言をしている。

今回、厳原病院、中対馬病院長の対馬新聞投稿記事は、全対馬市民を愚弄する以外のなにものでもない。

対馬いづらはら病院と中対馬病院の再編統合には、対馬住民は、当時も現在も全く納得も理解もしていない。 ふざけるな一言である。

両病院長が長崎県より、市民に対して充分な住民説明をするように指摘されているにも拘わらず、ただ、国会議員の○●建設に落札させるために住民説明会をせず、抜き打ち的に、病院建設を発表したことは対馬市民に対する大きな裏切り行為である。人の命を預かる医師が土方の手先として、走り回るのは、見ていると哀れである。

対馬市の地域医療等対策検討委員会更に、県議会の「基本設計疑惑」の疑惑解明まで実施設計をまでの議決を無視して「時間が無い」と強行入札公告をした事実等は絶対に看過できない。

この新病院建設に係る黒い霧
今は市長選挙の真っ最中。どの陣営もミニ集会を開いて、それぞれ支持を訴えているのは大変結構なこと

である。

財部市長の選挙事務所、前代未聞である。個人名ではあるが、対馬市の建築Aランク、星野建設のものである。議員選挙であれば、何の問題もない。今、行われているのは首長選挙である。さらに新病院建設推進部長が出入りしているとの情報がある。事実とすれば水戸黄門は絶対に見逃すことはない。星野建設に対しては縁もゆかりもないが、建築Aランクであり財部市長との癒着を疑わせるに充分である。

首長の常識

しかし現職市長が病院建設の是非を問う選挙であることを認識しているながら建築Aランクの建設業者の建物を選挙事務所として、使用することが何を意味するのか「**私は新病院建設を国会議員の○●建設以外にはさせません。その下請けは星野建設以外には認めません**」と広言しているのと同じである。

新病院建設推進部長

財部市長の選挙事務所に入っているのと同じ。事実とすれば財部市長の人間性を疑うだけではない。財部市長と企業団との癒着を疑う。

市民の皆さん

水戸黄門は「ごみ収集運搬不正入

札」等は本来新聞で報道しなければならぬと考えている。

水戸黄門は圧力には負けない。

事実を市民に理解してもらい、公平な市民の判断のもとに投票させるためである。そのために不正入札（落札者以外全員辞退）の事実を新聞折込を利用して公開した。

先日、別の原稿を持参して折込のお願いに言ったところ新聞本社より「おりこみの禁止」を言い渡されたという。残念では在るがしかたがない。

考えてみれば不正入札の事実を公開された、財部市長が黙認するとは考えなかったが、これで2回目の折込み拒否にあった。

新聞社に圧力を掛けて水戸黄門の発行を止めることができた。「にやついている、そのきみ」水戸黄門は、だれの圧力にも、逃げていく。そして奉行所に訴える。

まず市民の皆様を理解していただきたいのは入札の原理である。

特定の建設業者に落札させるには、余裕を持った基本設計を描か

せる必要がある。他の業者より先に建設場所を知らせる必要がある。これが今回の住民説明会ができなかった理由である。財部市長が、いまさら対馬市のCATVを利用して病院の必要性を強弁して選挙運動をする行為等、絶対に看過できない。

財部市長は病院建設の是非についてアンケートをとれという市民の要求を無視して建設場所のアンケートをした。住民の意向を完全に無視したアンケートにより、建設ありきとなり、住民は大混乱をした。

今回の新病院建設計画は市民の誰も要望していない新病院であることは明白である。病院企業団の矢野右人と徒党を組む**対馬市の地域医療等対策検討委員会**という得体の知れない輩である。

企業長として矢野右人は、地方に医師を派遣する義務がある。この義務を放棄して病院長に医師の確保をさせている。何故か？

一口に言えば、医師を確保するためには新病院を建設して規模を大きくしなければ医師を養成することがで

きないと医師が市民の恐怖心を煽って誤った理解をさせるためである。

これが新病院建設に直結するのであるから、企業団長の矢野右人が離島に医師を派遣するわけがない。

離島の院長が住民に理解を求めるための住民説明を開催することにより、住民に新病院を建設しなければ医師が対馬からいなくなると市民の恐怖心を煽り、新病院の建設を強行する行為等、医師の無知、また院長は使命感から、研修医を確保しなければならぬという急迫感から、市民に訴えなければ成らない実情にある。

また市民の誰もが困る病院を建設する権利など財部市長や村瀬邦彦にはない。新病院建設について賛成か反対かのアンケートをするのが先決である。

新病院の建設は**対馬市の地域医療等対策検討委員会**という得体の知れない集団の考えであって市民の考えではない。市民の混乱を回避するため即時中止すべきである。

最後に選定能力のない選定委員会内藤設計が選定されたのは「天の声」以外にない。

県議会の「疑惑が解明するまで実施計画を中断せよとの決議を時間がないとして強行する矢野右人に激しい憤りを覚える。

水戸黄門

県議会は決議を無視する企業団に対しては対馬新病院に対する予算の否決によって対抗せよ。そうしなければ県議会の存在意義がなくなる。そしてそれによる損害は全て矢野右人の責任である。

県議会は矢野企業団長を即時排除せよ。そうしなければ離島の医療崩壊につながる。

現在水戸黄門情報は全て対馬市民の知る権利である。それを報道機関が報道しない。水戸黄門は正義感から対馬市民に公開している。これが事実だ。

水戸黄門